

令和7年4月7日
小千谷市にぎわい交流課

小千谷市地域間交流センター再整備に関するサウンディング型市場調査（対話）
結果概要

1. 経緯

新潟県小千谷市では、令和7年3月31日をもって営業終了した湯どころちぢみの里について、道の駅としてリニューアルする方針です。施設の再整備にあたり、多様なノウハウや手法を持つ民間事業者が有する柔軟なアイデアを活かした施設整備を行うことを目的として民間事業者と個別に対話を行いましたので、その結果を公表します。

2. スケジュール

日時	内容
令和7年1月28日（火）	実施要領公表
令和7年3月3日（月） ～ 令和7年3月7日（金）	現地説明会開催
令和7年3月24日（月） ～ 令和7年3月27日（木）	個別対話（対面）

3. 参加者数

2者

4. 調査（対話）の主な意見概要

項目	主な意見概要
① 情報発信及び地域振興の場として賑わいの創出となるアイデア提案	
i 施設のコンセプト（整備地における市場のニーズはなにか）	
	・市民の憩いの場と観光客の目的地を施設のコンセプトに設定した。リニューアル直後に爆発的に来館者が増加し、その後急激に来館者が減少するケースが多いが、市民の憩いの場となるように、継続性をもった施設にしたい。 ・世界幸福度ランキング1位のフィンランドと小千谷市は、「自然と調和した暮らし」「雪国のライフスタイル」「サウナ・温泉文化」などの共通点がある。この共通点に着目し、フィンランドのライフスタイルと小千谷の魅力を融合させた体験型施設にすることで、訪れる方々の幸福度が上がるような体験をしてもらう。 ・分かりやすいコンセプト設定を行う。

・フィンランドはサウナとシャワーで済ませることが多く、湯船をはることが少ない。
ii 利用者誘客プログラム（誘客ターゲット、地元利用者及び観光客に対する企画など） ・利用されるお客様としては、日々利用される地元の方と観光で来られる方になる。施設コンセプトと連携したイベント開催を行う。 ・地元の方の利用をターゲットにし、農産物直売所をおく。出荷組合設立に協力し、6次産業化を目指す。 ・フィンランドでは、サウナの前後に飲食を楽しむ習慣があることから、サウナパーティーで小千谷縮を着用や、雪を活用した外気浴、こたつのような足だけサウナ、錦鯉を鑑賞しながらのサウナなどを行う。 ・フィーカ（お茶やコーヒーと甘いお菓子とともに、ゆっくりと休憩や会話を楽しむ時間） ・2階の個室を宿泊客室として利用。 ・フィンランドでは、コディカスという家でのんびり過ごすことを大切にする文化があることから、北欧デザインのインテリアの部屋と、小千谷の文化に触れリラックスできる空間をつくる。 ・誘客ターゲットとしては、フィンランド雑貨やキルト、ムーミンが好きな層とインバウンド観光客。 ・宿泊料は入館料より単価を高く設定できることから、市外の方の宿泊をメインターゲットにする。
iii 近隣の農業関係団体や観光施設との連携
・市地域産物に特化した商品展開を行う。 ・市内への送客のため、効果的なPRを行う。 ・小千谷ならではのもので、東京で人気のものがあるので、そういったものをPRする。 ・織物や食品の会社と連携。 ・サウナに入りながら錦鯉を鑑賞。
② 運営していくためのアイデア提案
i 運営の考え方（施設のコンセプト、誘客プログラム、広報活動、施設の整備方針などの考え方）
・宣伝はSNSを活用。 ・地元企業をSNSで発信することで観光振興につながる。 ・他の道の駅と差別化したイベントを行う。 ・WebサイトやSNSの活用 ・フィンランド大使館と連携。 ・既存施設を極力利用したリノベーションを行う。浴場はサウナ・シャワー・錦鯉、食堂はフィーカや食事スペース、2階個室を宿泊施設とする。

ii 地域貢献に対する考え方、提案等
・小千谷の魅力の再発見や向上に繋がることを行う。 ・高齢者向けのイベントを開催し、地元の方にも利用してもらう。 ・ちぢみの里を観光施設として活用し、市内の各施設と連携した企画やイベントを展開することで、地域活性化に貢献する。
iii 行政に求める支援や配慮して欲しい点
・施設の移転を前提とした、向こう30年を見据えた施設整備。 ・市民を第一に考えた道の駅を検討していく。

5. 今後について

今回の調査（対話）で、ご参加いただいた参加者の皆さまから、貴重なご提案・ご意見をお聞きすることができました。いただいたご提案・ご意見を参考に、民間の専門的な技術やノウハウの活用可能性を検討していきます。